

平成 26 年度 第 1 回 釧路湿原エゾシカ対策検討会議
議事概要

1. 平成 25 年度調査結果等の報告について

・資料 1-1 平成 25 年度エゾシカ採食状況調査 実施結果

委員	湿原内の被食植物に標識はされているか？低木類が翌年枯死するのか生存するのかわかるのではないか。
事務局	標識はしていないが、図があるので追跡可能。ただし、被食は冬芽で樹皮剥ぎではない。
座長	高層湿原に焦点を当てて、季節としては秋に、また重要種の食痕が多く、また、夏には低層湿原とハンノキ林での影響が大きいことがわかったことが、今後の生態系維持回復事業を考える上で大きい成果である。

・資料 1-2 平成 25 年度達古武地域エゾシカ試験捕獲 実施結果

委員	妊娠率や栄養状態、体サイズはどうだったか。
事務局	有効活用のために搬送されたので計測はされていない。標識個体・放獣個体は計測値がある。
委員	囲いワナ捕獲の前後で、個体数や個体数指数、カメラトラップなどの変化はどうだったか。
事務局	カメラトラップの撮影頻度で見ようとしたが、いいデータがとれていない。雪の影響などもあり、数値の変化が捕獲の影響かどうかを知ることは難しく、手法を検討する必要がある。
委員	囲いワナで捕獲をする際に、捕獲数の期待値は設定していたか。
事務局	試験捕獲なので、目標設定はしてない。
委員	落下扉は、どのように落としたのか。
事務局	遠隔で携帯電話の電波でカメラの画像を遠くから見ながら、遠くからゲートを落とす方式。
座長	今回のいくつかの捕獲手法のタンチョウへの影響はいかがか。
委員	銃器もくくりワナも冬季の森林内であるので、影響はほとんどない。
座長	忍び猟式シャープシューティングとか、流し猟式の言葉の定義は。
事務局	忍びで、かつ、群れごと確実に捕れるチャンスでのみ捕獲するという方針の場合、忍び猟式シャープシューティングとしている。
委員	国立公園内のシカのモニタリングは、環境条件も含め総合的に考察すべき。
座長	今後、シカの生息密度が変化するほど捕獲を周辺地域も含めて行う場合は、生息密度や植生への影響を中長期的モニタリングすることが重要になる。
委員	今後、囲いワナと併用する追い込み罠や誘導柵についての検討も必要。

・資料 1-3 平成 25 年度エゾシカテレメトリー調査 実施結果

委員	使用している植生図のスケールは何か。
事務局	25000 分の 1。
委員	バッテリーの寿命は？
事務局	3 時間ごとのデータ取得で 1 年以上。6 時間ごとなら 2 年以上。
委員	夜間にカラマツ林で休息しているのか採食しているのか。
事務局	ワナ付近は、カラマツ林で林床がササである。誘引エサを食べているか休んで反芻していると考えている。
座長	雪が少ないせいか枝条・枝葉は採食していないが、餌付けにかかった期間は。
事務局	比較的短期間で餌を食べ始めた。年末までには完全に餌付いた。
委員	GPS のデータには誤差があるので、解析時には 10m・20m という円を描いて植生の解析をした方がいい。今後、ワナの設置場所を検討するうえで重要なデータである。
委員	標津に移動した個体が撃たれないように地元と情報共有したほうがいい。
座長	ワナ捕獲の場合は、餌付けにかかる日数や餌付けができていることが重要。

・資料 1-4 H25 エゾシカ捕獲体制構築モデル事業 結果概要

座長	減容はできたか。
関係機関	頭、内臓、皮は全部処理できた。
委員	くくりワナの捕獲頭数は。
関係機関	31 頭。(別事業、コッタロ町有林の林道沿いに牧草で誘引)

2. 平成 26 年度環境省事業計画（案）について

・資料 2-1 平成 26 年度達古武地域事業計画(案)

座長	H25 年度同様の大型囲いワナに加えて小型のワナを設置するということか。
事務局	2 か所に設置はするが、小型でないと設置できないということではない。
関係機関	もう 1 か所は、環境省所管地か。
事務局	達古武地域の環境省所管地で行う。
委員	くくりワナもエサで誘引しては。
事務局	近くの囲いワナで順調に捕獲されているので、見合わせた。今後も雪やシカの出方によって、囲いワナやくくりワナを組み合わせ、戦略的にかつ総合的に、状況を見ながら柔軟に選択するのが一番いいと考えている。
座長	雪の状況でシカの出方も変わるので、数か所の候補地にカメラをかけておいて、最終的に決めるのがいい。
座長	警戒心を高めないように、無理に銃を使う必要はないと考える。囲いワナの捕獲効率が落ちた場合などにくくりワナを併用して効率を上げるのがいい。

・資料 2-2 平成 26 年度コッタロ地域事業計画(案)

座長	コッタロで標識を装着するために捕獲するのに適した方法は何か。
事務局	道路脇にいるシカを麻酔銃で捕獲するのがいい。
委員	発信機は、何頭に装着すると想定しているか。
事務局	検討中だが、ある程度の数をつけたい。
事務局	発信機は、何頭に装着することが望ましいか。
委員	少なくとも 10 頭。
委員	取得された GPS データをもとに捕獲方法を考えるべき。
委員	道路からの捕獲可能性を検討しておくべき。そのために、爆音器などで動かないか、銃声音で散らないか、人が車から降りた時の反応（逃げる距離）を調べる。同時に、隣接した町有林のシカの反応も見ておいた方がいい。
座長	道道 1060 号線を通行止めにするなどの際には、地域住民の方々との合意が重要になるので、早めに情報発信が必要。
座長	麻酔銃による捕獲が道道沿いであまりできないようなら、サルボ展望台付近も検討しては。

3. (仮称) 釧路湿原生態系維持回復事業計画について

・資料 3 釧路湿原国立公園釧路湿原生態系維持回復事業計画（仮称）（試案修正版）

座長	計画策定のスケジュールは？
事務局	今年度中に関係調整終了、釧路自然環境事務所として計画案を作成し本省に提出し、調整の後、27 年度に策定予定。
座長	捕獲補助柵を検討されてはどうか。
事務局	知床岬のようなイメージ。
座長	射撃タワー、ハイシートなどいろいろな手法があるので射撃用タワーとしたほうがいい。
座長	1980 年ラムサール条約登録以前の状態を長期目標にしてはどうか。
座長	自然再生協議会と調整して森林再生の中でもシカ対策を位置づけてほしい。